

吉野復興大臣の福島復興再生総局幹部会合後  
ぶら下がり会見録

(平成29年6月3日(土) 12:00-12:03 於) 福島市)

1. 発言要旨

ただいま福島復興再生総局の幹部会合を行ってまいりました。復興庁福島復興局、そして環境省の再生事務所、そして原災本部の現地本部、この三つが本当に連携しながら、福島の再生のために頑張っていることに対し、冒頭、私の方から皆様方に御礼を申し上げたところでございます。

まず、復興局の報告については、避難指示解除区域においては、生業の再生、コミュニティーの再生、見守り、心の復興、また、買い物の環境整備等々のお話が出ておりました。中長期のロードマップの推進、これも12市町村、これから会合を開くわけですが、ここでも、そこで12市町村の首長の方々といろいろな意見交換をしてみたいと思います。

また、困難区域については、長い時間はかかるかもしれないけれども、必ず解除するという、そういう決意を今度の基本方針にも書かせていただくところです。とりあえず、復興拠点を整備して、5年以内で新しいまちをつくっていく、そういうところの報告を受けたところでもあります。

原災本部の方からは、医療や買い物の環境整備のお話がありました。そして、官民合同チームが、いわゆる今度の改正福島特措法において位置付けをされたわけでありまして、農業の方がなかなか歩かなかったんですけれども、今回、214人の方々のところも訪問をしたという報告を受けました。一丁目1番地である廃炉・汚染水の対策に万全を期すという報告を受けたところです。

環境再生事務所の方からは、除染、廃棄物の処理状況、29年度はトンバッグを50万立方運ぶということです。28年度は18万立方、袋でいうと18万個運んだそうです。今年は50万個運びたいということで、トラックの確保、運転手の確保、いろいろな課題があるかと思います。あと、交通渋滞、安全運転、いろいろな状況があるかと思いますが、そういう状況の報告を受けました。また、中間貯蔵施設の整備状況、そして、エコテック等々のお話もあったところでございます。

2. 質疑応答

なし。

(以 上)